キルギス共和国日本語教師会会報
第 66 号 2023 年 2 月 14 日発行
Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики
№ 66 от 14.02.2023 г.

ご挨拶に代えて

キルギス日本語教師会の役割

キルギス共和国日本語教師会 会長　　ママーシェワ・ジィデグーリ

◆アスランベック・クズ・グリザット先生の後任として本年度よりキルギス共和国日本語教師会会長を務めさせていただきますママ―シェワ・ジィデグーリです。グリザット先生お疲れ様でした。会長のような大役は初めての経験で、まだまだ未熟な点が多々あるかと思いますが、精一杯務めさせていただきます。会報発行も前年度からの活動引き継ぎに手間取ってしまい、このように予定よりずいぶん遅れて 66 号を発行することになりました。この場を借りてお詫び申し上げます。

◆キルギス共和国における日本語教育が今後どのようになっていくかは、教師会の活動にかかっていると思います。日本語学習者のモティベーションを維持しさらに向上させようと、日本語教育を行っている各機関で様々な日本語に関するイベントを毎年開催してきました。日本語弁論大会をはじめ、日本語作文コンクール、ビデオコンテスト、オンラインでの日本語勉強会などです。次は、学習者のレベルに応じた勉強会も開催できるでしょう。大事なのは、日本と日本語に関する行事を継続していくことです。また、各機関の教師とキルギス国内外の教師会会員同士がネットワークで結ばれて、頻繁な情報交換で連携を深めていくことが重要です。

◆教授法をはじめ、教育実践や研究成果を共有し、日本語能力試験や日本留学プログラムに関する情報、国際交流基金などへの申請手続きのノウハウなど、在キルギス日本国大使館や JICA キルギス事務所、キルギス日本センターなどの協力を仰ぎながら、キルギスにおける日本語教育普及活動を推進していくのが教師会の大きな役割です。

◆さらに、今後のキルギスと日本の交流発展の意味からも、教師会のホームページを通じてだけでなく、キルギスはもちろん日本のメディアに積極的にキルギス共和国日本語教師会の活動について情報発信していくのも大事です。キルギスの人々に日本と日本文化に興味をもってもらうため、また、日本の人々にキルギスとキルギス文化に興味をもってもらうための効果的な手段です。

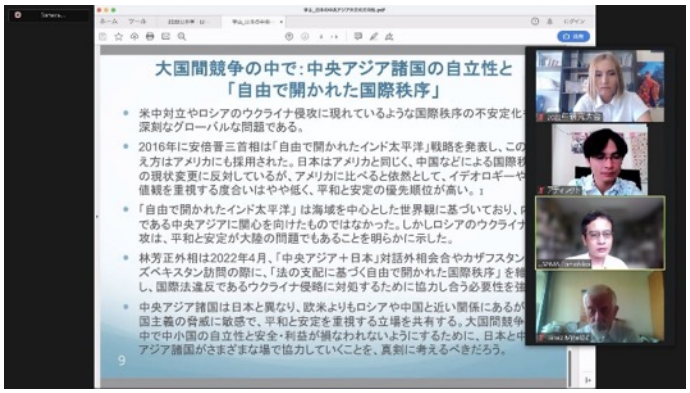
◆教師会会員の皆さん、人間一人の力には限界があります。役員だけでは何もできません。会員一人ひとりの力を集めて初めて大事な事業に取り組むことができると思いまます。キルギスの発展と日本語教育の充実を目指して、どうか力を合わせて活動に参加してください。みなさんのご協力とバックアップを期待しています。

◆いつも教師会活動を支援してくださっている皆様、教師会活動へのご協力に感謝申し上げます。今後ともご指導ご協力をどうかよろしくお願い致します。

キルギス共和国日本外交関係樹立 30 周年記念「2022 日本学・日本語教育国際研究大会」

2022 研究大会実行委員長　ママ―シェワ・ジィデグーリ

◆キルギス共和国日本語教師会は 2022 年 8 月 20 日（土）、キルギス共和国日本外関係樹立 30 周年記念「2022 日本学・日本語教育国際研究大会」を開催しました。在キルギス共和国日本国大使館をはじめ、JICA キルギス共和国事務所、キルギスと日本の交流促進に携わる機関などの協力をいただきました。

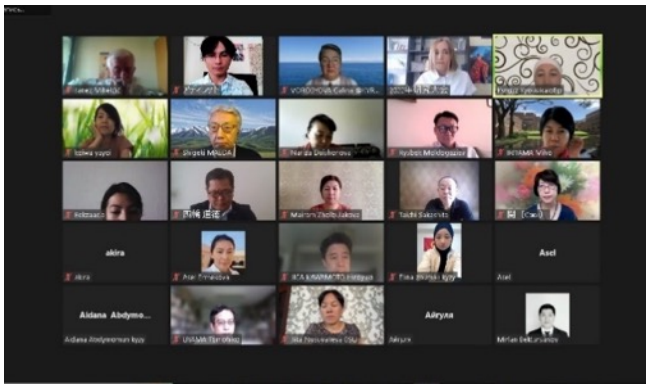


◆今回も昨年に続いてオンラインでの開催となりました。開会に際して、駐キルギス共和国日本国特命全権大使の前田茂樹様とキルギス日本ビジネス協議会会長のモルドガジエフ様よりご挨拶いただきました。

◆大会第 1 部では、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授の宇山智彦先生が基調講演をしてくださいました。テーマは「日本の中央アジア外交の方向性：アジア開発援助外交からグローバル課題への取り組みへ」という教師会の研究大会としては初めての中央ジアと日本の政治経済分野での国際交流に関するテーマで、参加者は興味深く聞き入っていました。宇山先生の基調講演に続き、実践報告として JICA キルギス事務所所長の川本氏、キルギス日本人材開発センター共同所長の岩井氏、ジャパンスタイル代表の四橋氏の発表に発表していただきました。

◆12 時から 13 時までの休憩時間には、「外交関係 30 周年を祝して」という、日本やキルギスの各地にお住まいの日本と関わりのある方々からのビデオメッセージを参加者に視聴してもらいました。

◆第2部の基調講演は、新潟大学（日本学術振興会特別研究員）のアクマタリエワジャクシルク先生の「日本語とキルギス語を『学ぶ』・『教える』意味～日キ文化の懸け橋として～」でした。先生ご自身の経験に基づくとても興味深いお話をしてくださいました。続いて、KRJCの坂下太一先生（国際交流基金日本語専門家）のビデオコンテストについての発表、ヴォロビヨワ・ガリーナ先生の「ストローク、カタカナと漢字の形の関連性を利用した指導法」についての発表、そして、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター非常勤研究員のベクトゥルスノフ・ミルランさんの「研究でつながる日本と中央アジア」という発表がありました。

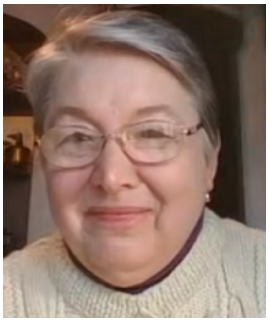


◆参加者は 43 人でした。実行委員長としてはとても緊張しましたが、今回は多くのゲスト報告者に協力いただき充実した研究大会になったと思います。ネットの接続も途切れることなく、プログラム通りスムーズに終えることができて、ホッとしています。基調講演の宇山先生とジャクシルク先生、実践報告や研究発表をしてくださった方々に感謝状を、そして参加者の皆さんには、後日、参加証明書をお届けしました。

◆最後になりますが、参加者をはじめ今回ご協力くださった方々に心より御礼申し上げます。このような大会に実行委員長として関わることができた経験を個人的にも日本語教育普及活動にも活かしていきたいと思います。今後ともご協力ご支援、どうかよろしくお願いいたします。

モスクワ国立総合大学主催
オンライン方式国際学術会議に参加して

ヴォロビヨワ・ガリーナ、PhD



◆2022 年 10 月 28～30 日に M.V.ロモノーソフ・モスクワ国立総合大学付属アジア・アフリカ諸国大学とロシアおよび CIS 諸国日本語教師会の共催で日本語学・日本語教育に関する国際学術会議が Microsoft Teams というコラボレーションプラットフォームで実行されました。参加者は約 200 人でした。

◆初日にはパネルセッションがあり、その後同時に 2 つの発表のセッションが行われました。教授法、教材作成、日本語学習の動機、日本文化研究、日本語教育における文化的側面などの分野に関する 3 か国（ロシア、日本、キルギス）の 53 人の研究者や日本語教師が講演、ワークショップ、研究発表と実践報告をしました。発表は主にロシア語でされて、日本から参加した 2 人の日本人は日本語で発表をしました。漢字指導法、コミュニケーション能力の育成、会話能力の育成、翻訳と通訳の教え方、日本語教育における各種記憶の重要性などをテーマに興味深い発表がありました。珍しいテーマ、例えば、「宮崎駿の映画『千と千尋の神隠し』の主人公を例に、企業の理想的な社長のイメージ」、「日本語を学ぶロシア人留学生のメンタルヘルス分析」などもありました。

◆ロシア以外の CIS 諸国からも参加者がいましたが、残念なことに発表をしたのは私だけでした。私の発表のテーマは「日本語学習の動機付けにおける作文コンクールの役割について」でした。私が 2021 年の「大森賞・世界の日本語作文コンクール」（https://www.nihonwosiru.jp/）で 48 か国の約 4000 人の参加者の中で 1 等賞を受賞したことを知った当学術会議の実行委員会の副委員長、モスクワ国立総合大学のルマック・ナタリア准教授が「作文コンクール」をテーマにした発表を勧めてくださいました。キルギスで 11 年間にわたって行なわれた作文コンクールや日本で長年開催されている「大森賞・世界の日本語作文コンクール」を中心に話をしました。日本語学習における作文作成の意義は「自分の知識に自信を持つ」、「自分の考えを伝える力を育てる」、「語彙を増やす」、「漢字の知識を深める」、「文法の知識を深める」、「辞書やインターネットツールを使用する能力を育てる」などの能力の育成だと考えられます。私の発表に対して会議の場ではもちろん、会議が終わってからもいいコメントをいただいて大変刺激になりました。

◆会議の翌日、早速インターネットに発表証明書と全体の発表のビデオがアプロードされたので、すぐに見ることがでました。皆さんも、どうぞ以下でご覧ください。

https://drive.google.com/drive/folders/1mKHMeYB1T1IbaszppFPCwrXOo3gPZV_K?usp=sharing

◆2023 年 3 月 16～18 日にモスクワ市立大学で次の国際学術会議が開催されますが、発表募集が始まっています。応募申し込みと参加申し込みは jles.ru/2023 という URL からできます。参加する意義はあると思います。締め切りは 2023 年 1 月 10 日でしたが、キルギスの日本語教師と学生も申し込んでいたら嬉しいですね。

＊＊

オシュ日本センターの活動

アスランベック・ウール・アディレット
（オシュ日本センター 職員）

◆オシュ日本センターは 2022 年 11 月 6 日、オシュ市で「日本文化の日」イベントを開催しました。イベントは、オシュ市の中心部に会場を設けて行われました。連休にも関わらず約 200 人が来場してくれました。

◆日本食から忍者ダンスまで日本に関する様々なコーナーがあり、日本が大好きな人々、日本に興味がある人々にとって、日本文化に触れるいい機会となりました。参加者は浴衣を着て日本人の気分になったり、折り紙、生け花、茶道、書道なども試してみました。折り紙コーナでは、折り方を教えてもらった人たちは、自分でも折り紙を折って楽しそうでした。書道コーナーでは、参加した人全員が漢字に興味を持っていました。筆を使って文字をどう書くのか教えてもらい、好きな言葉の文字や自分の名前を書いていました。

◆オシュ日本センターでは日本語のコースを開講しています。日本文化のイベントを開催することも重要な活動です。キルギスの若者に日本語と日本文化のすばらしさを伝えていくことが我々の目的です。オシュでも日本語学習者が増えてきていますから、これからも毎年、今回のようなイベントを積極的に開催していきたいと考えています。

🇯🇵 🇰🇬 🇯🇵 🇰🇬 🇯🇵 🇰🇬 🇯🇵 🇰🇬

KJFF と日本文化普及活動

報告：浅野哲也（Director of Kyrgyz-Japan Friendship Foundation KJFF）

オシュ国立大学での日本文化の日イベント

◆日本文化の日イベントがオシュ国立大学で行われました。在キルギス大使館の大川次席と落語家の長尾千代さんをお招きし、学生たちの企画のもとＪ-POP ダンス、民族舞踊、歴史クイズ、歌、そして留学、研修経験などのプレゼンテーションがありました。ゲストの長尾さんは落語をロシア語で披露してくださいました。大川次席からはマンガ『乙嫁語り』全 14 巻の寄贈をいただきました。

ジャララバード国際大学に日本文化交流センターがオープン

◆ジャララバード国際大学内に日本文化交流センターが開設されました。センターでは、日本語教育や文化交流、留学、インターン、就職など人材交流のサポートをしていくことになっています。開館式には在キルギス日本大使館の大川次席、落語家の長尾千代さん、ジャララバード副市長などが出席してくださいました。ジャララバード州における日本文化普及を目指し、日本とキルギス両国の友好関係を深められるよう力を尽くしていきます。

オシュ国立大学日本文化の日

アサナフノワ・ザリナ
オシュ国立大学 日本語教師

◆オシュ国立大学日本語センターでは、現在 40 人以上のキルギスの学生が日本語や日本文化について勉強しています。今年 11 月からは日本からのインターン生の受け入れも始め、日本の明治大学の卒業生が日本語教師として勤務しています。

◆11 月 24 日には大学内で、学生たちと一緒に日本の歌や踊りやクイズ、食べ物を披露するイベントを行いました。学校内の多くの学生や教員が参加しました。また、在キルギス日本国大使館次席の大川壮一郎さんや、英語で日本の伝統演劇の落語をされている永尾千代さんにも来ていただきました。

日本大使館次席の大川さんとディムラット校長

大川さんと永尾さんによるショートコント
会場は笑顔で溢れました

◆イベントの数週間前から生徒皆で準備を始め、本番は多くの方にお越しいただきました。キルギスの人々に日本について知っていただく良い機会になりました。

◆イベントを通じて日本文化について興味を持っていただけたのではないでしょうか。そして、生徒が作ったおにぎりや海苔巻きを来場した方に配りました。多くの方に喜んでいただき、あっという間になくなりました。イベント終了後には、在キルギス日本国大使館から生徒へプレゼントとして漫画を頂きました。

生徒たちによるスピッツの「チェリー」合唱

日本舞踊も披露しました

ビシケク国立大学東洋国際関係学部開設 30 周年

エリメコワ・アセーリ
ビシケク国立大学 東洋国際関係学部
日本語日本文学研究講座講師（学科長代行）

◆ビシケク人文大学（現ビシケク国立大学）に新しく東洋国際関係学部が開設されたのは 1992 年です。最初の学生は、ソビエト社会主義共和国連邦建国 50 周年記念キルギス国立大学で第一学年を修了した学生たちとウラジーミル・マヤコフスキー記念キルギス女子教育大学東洋学科を卒業した学生たちでした。以来、学部は色々な困難を乗り越えてきましたが、多くのオリエンタリストや外国人ボランティア、それぞれの研究講座講師やスタッフと学生たちのおかげで、数々の素晴らしい業績を上げることができました。

学部創成期（1992～93 年ごろ）

◆学部開設３０周年記念イベントは、10 月 28 日コンサートホールを会場に開催されました。学部の代表、教師、卒業第一期生代表と現役の学部生と大学院生が招待されました。当日は、1992 年から 2022 年に至る３０年間に実施されてきた教育内容や教授法、教員や大学院生による学術研究活動の現状に関する展示コーナーも設けられました。残念ながら、招待客全員の出席はかないませんでしたが、セレモニーではムルザフメトワ研究部門担当副学長と、マシュラポフ東洋国際関係学部長が開会を宣言、様々な事情で出席できなかった関係者からの祝電が披露され、創成期の功労者たちもステージに招かれました。

３０周年を祝って（日本語専攻学生）

国士舘大学との第 1 回テレビ会議（2008 年ごろ）

◆ビシケク国立大学の日本語教育発展に多大な貢献を果たしてきたのは氏原名美教授です。東洋国際関係学部において日本語日本文学研究講座を牽引し日本研究の人材育成に尽力してきました。ビシケク国立大学では、日本語教育が充実する中で次々と日本の大学との学術交流協定が実現し、それら協定校の幾つかとは留学生交換に関しての覚書を取り交わしてきました。今では、氏原教授をはじめとする日本語日本文学研究講座所属教員の熱意が実を結び、毎年十人を超える学生が協定校との留学交換プログラムを通じて日本に留学できるようになりました。COVID-19 によるパンデミック以来、キルギスを離れ日本からオンラインで大学院レクチャーや学生の作文やスピーチ指導にあたってきた氏原教授ですが、2022 年 9 月、正式に東洋国際関係学部在外ボランティア教授に任命されました。引き続き、研究指導や教育活動への助言をお願いしたいと切に願っています。

◆東洋国際関係学部では、30 年にわたる研究および教育活動の中で、目まぐるしく変化する時代のニーズと学生たちの要望に応えながら、さまざまな教育方法を研究・応用し、最新の教授法の実践に努めてきました。これからもキルギス共和国におけるオリエンタル・スタディーズと国際関係学の発展と国際舞台で活躍できる優秀な人材育成に貢献できるよう努力を重ねていきたいと思います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

キルギス共和国日本語教師会会報 第 66 号（2023 年 2 月 14 日発行）
編集：キルギス共和国日本語教師会広報委員会《会報編集部》

キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com
賛助会事務局 E-mail: kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com
会報バックナンバー https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik
KAJLT HP http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com
ウィキペディア https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会
Facebook https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel
http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/

Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики
№ 66 от 14.02.2023 г.